

## 第5回スリランカ本邦研修 ～公正な司法アクセス強化～

国際協力部教官

後 藤 圭 介

### 第1 はじめに

法務総合研究所国際協力部は、2023年3月3日（日）から同月13日（水）までの11日間（移動日を含む。）で、スリランカ高位裁判所（High Court）<sup>1</sup>モハマド・ヤコブ・モハマド・イルサディーン判事ら合計15名（別添1：名簿）を対象に、法務総合研究所赤れんが棟及び独立行政法人国際協力機構（以下「JICA」という。）東京センター等において、第5回スリランカ本邦研修（公正な司法アクセス強化）を実施した（別添2：日程表）。

本稿では、同研修の概要について紹介する。なお、本稿中の意見にわたる部分は、全て当職の私見であり、所属部局の見解ではない。

### 第2 本研修の背景及び研修の目的

1 スリランカ民主社会主義共和国（以下「スリランカ」という。）は、2009年の内戦終結以降、健全な社会制度の再建が課題となっているところ、特にスリランカの裁判所では様々な原因により刑事訴訟が遅延し、大量の事件が処理されないまま長期間滞留している状態で、かつ、重大事件の犯罪者が適切に処罰されないなどの問題が存在している。

JICAは、スリランカ政府からの要請に応じ、「刑事訴訟の遅延解消」を目的に2019年度から2年間の予定で国別研修を実施することを決定し、当部（以下「ICD」という。）はこれに協力することとした。

そして、2019年8月にスリランカの首都コロンボにおいて現地調査を実施した結果、スリランカの刑事司法における関係機関は相当程度の能力を備えているものの、英国から継受した刑事訴訟手続の複雑性、立証活動の非効率性、実務慣行の硬直性等の複合的な要因によって訴訟遅延が生じており、刑事司法の制度上・実務上の機能改善が必要であることが判明したことから、2019年度から2年間の国別研修では、刑事訴訟の遅延解消をテーマとして研修を実施した<sup>2</sup>。

そして、上記の国別研修の継続案件として2021年度から2年間にわたり刑事司

<sup>1</sup> 第一審裁判所である High Court について控訴審裁判所であるとの誤解を与えないため、「高等」の訳語を避け、「高位裁判所」と訳した（茅根航一「スリランカ改正刑事訴訟法の概要及び試訳」ICD NEWS 第93号（2022年12月号）32頁脚注4）。

<sup>2</sup> 国別研修の一環として行われた本邦研修の概要については、高梨未央「第1回スリランカ本邦研修（刑事司法実務改善～刑事訴訟の遅延解消に向けて～）」ICD NEWS第83号（2020年6月号）140頁以下、河野龍三「第2回スリランカ本邦研修・オンライン（刑事司法実務改善～刑事訴訟の遅延解消に向けて～）」ICD NEWS第87号（2021年6月号）209頁以下を参照されたい。

法実務の改善をテーマとして国別研修を実施した。同国別研修では、新型コロナウイルス感染拡大の影響によりオンラインでの研修<sup>3</sup>を2回実施し、公判前整理手続を始めとする我が国の刑事訴訟の迅速化に資する取組を共有した。

このような我が国の支援等により、2022年2月に改正された刑事訴訟法において、第1回公判前の準備手続として「公判前手続（Pre-Trial Conference：P T C）」が導入されたことを受け、同年8月にはコロンボでワークショップ<sup>4</sup>を開催し、法曹三者で協議を重ね、P T Cの効果的な実施のためのマニュアルとなる「標準運用指針（Standard Operating Protocols：S O P）」のドラフトを作成するなどした。

- 2 このような刑事司法実務の改善、特に刑事訴訟の迅速化に向けたスリランカを取組を更に効果的なものとするため、2023年度、その継続案件として国別研修「公正な司法アクセス強化」が2年間の予定で採択され、2023年3月に第5回本邦研修（以下「本研修」という。）を実施することとなった。

上記のとおり、スリランカでは2022年2月の刑事訴訟法改正によりP T Cが導入され、原則として高位裁判所に起訴された全事件についてP T Cが実施されているところ、P T Cにおいて、裁判所が当事者に対して証拠開示の実施状況、認否や主張、取調請求証拠に対する意見を確認し、その内容を公判調書に記録することにより、これまで公判期日において五月雨式に行われていた各手続が第1回公判期日前に終了するようになり、その結果、刑事訴訟の迅速化に一定の効果を上げていると認められる。

他方、証拠上は明らかに犯罪の成立が認められると考えられる事案であるにもかかわらず、被告人が事実を全面的に争い、検察官の証拠取調請求に係る書証は全部不同意となるため、検察官が主張する全事実について証人尋問による立証を行うことが余儀なくされるなど、P T Cが効果的に機能していない事案も珍しくない状況にあり、特に地方においてはそのような事案が多く存在することが司法関係者から指摘されている。

我が国では、2004年5月の刑事訴訟法改正（2005年11月施行）により公判前整理手続が導入され、2009年5月の「裁判員の参加する刑事裁判に関する法律」の施行に向け、同手続の定着化を図ったという経験を有するところ、限られた期間内で同手続が定着した要因の1つとして、法曹三者による各自の取組に加え、全国の法曹三者が公判前整理手続の効果的な実施に向けて共同研究や模擬裁判等を通じて互いに連携・協力したという点が挙げられる。かかる経験は、スリランカにおけるP T Cの効果的な実施に当たっても有用であると考えられることから、我が国における公判前整理手続に関する経験や知見を共有することにより、P T Cの効果的な実施を

<sup>3</sup> 国別研修の一環として行われた本邦研修の概要については、及川裕美「2021年8月スリランカオンラインセミナー（刑事司法実務改善～刑事訴訟の遅延解消に向けて～）」ICD NEWS第89号（2021年12月号）122頁以下、同「第4回スリランカ本邦研修（オンライン）（刑事司法実務改善～刑事訴訟の遅延解消に向けて～）」ICD NEWS第91号（2022年6月号）114頁以下を参照されたい。

<sup>4</sup> 現地ワークショップの概要については、國井弘樹「第5回スリランカ研修（現地ワークショップ）（刑事司法実務改善～公判前整理手続の運用指針決定～）」ICD NEWS第93号（2022年12月号）150頁以下を参照されたい。

進めるための方策について検討し、スリランカの刑事訴訟の迅速化の推進に貢献することを主たる目的として本研修を実施するに至った。

### 第3 研修の内容

- 1 本研修のテーマは、上記のとおり、我が国における公判前整理手続に関する経験や知見を共有することにより、P T Cの効果的な実施を進めるための方策について検討し、スリランカの刑事訴訟の迅速化の推進に貢献することであった。具体的には、模擬公判前整理手続等を通じて、公判前整理手続が我が国においてどのように機能しているかを共有した上、刑事事件の経験が豊富な法曹を講師として招き、我が国における公判前整理手続の運用とその定着に向けた取組を紹介する講義等を実施し、研修参加者によるP T Cの効果的な実施の在り方及びS O Pの最終ドラフトの完成に向けた検討の機会を設けた。

#### 2 各種講義

我が国における公判前整理手続の運用とその定着に向けた取組を紹介するため、以下の各種講義を行った。各講義の要旨は以下のとおりである（実施順に紹介）。

##### (1) 本職による「迅速な刑事司法の制度」に関する講義

本職において、導入講義として、日本の刑事司法の概要や迅速な刑事司法の実現に向けた各種制度等について概説した。

##### (2) 原琢己弁護士による「弁護士の立場から見た公判前整理手続の実務」に関する講義

原弁護士は、日本で導入された公判前整理手続のスムーズな運用に向け、実施前後を通じて、裁判官、検察官、弁護士の法曹三者それぞれの研さんに加え、法曹三者での協議や共同での分析・検討が重ねられてきたことに関し、弁護士の立場からその経緯を講義していただいた。具体的には、公判前整理手続導入前の法曹三者と裁判員役を務めた一般市民による模擬裁判（評議を含む）とその後の意見交換会のほか、裁判員裁判終了後の法曹三者による意見交換会等を通じて、弁護人の立場から意見を述べるなどして、公判前整理手続のスムーズな運用に向けて協議等してきたことや、弁護士会においても公判前整理手続導入後に研修を実施するなどして、効果的かつ効率的な公判前整理手続の運用について研さんを積んでいることなどについて紹介していただき、日本において法曹三者が協議等を踏まえて迅速な公判前整理手続の実現に向けて様々な検討を加えてきたことを理解してもらうことができた。

##### (3) 東京地方検察庁公判部渡部亜由子副部長による「検察官の立場から見た公判前整理手続の実務」に関する講義

渡部副部長から検察庁における証拠開示の在り方等、迅速な公判前整理手続の実現に向けた検察庁の取組について紹介していただいたほか、本講義の前に、東京地

方裁判所で刑事裁判を傍聴していたことから、同刑事事件に関する質疑応答も行っていた。

(4) 日本大学大学院法務研究科大島隆明教授による「公判前整理手続の定着に向けた取組」に関する講義

大島教授は、元東京高等裁判所部総括判事として、日本において公判前整理手続の導入に際し、実施前後に裁判所内で主導的な役割を果たされたことから、その経験を踏まえ、公判前整理手続を導入するに至った経緯やその定着に向けた取組について講義していただいた。講義後の質疑応答では、研修参加者から、日本の裁判官による主張整理や証拠整理の手法等に関する質問がなされるなど、裁判官の訴訟指揮によって迅速な公判前整理手続に向けた取組が行われていることについて理解してもらうことができた。

3 模擬公判前整理手続

模擬公判前整理手続では、原琢己弁護士、福島崇之弁護士及び当部教官において、殺人未遂事件を題材に公判請求後の打合せ期日及び公判前整理手続期日における法曹三者でのやり取りのほか、弁護人・被告人の模擬接見、検察官・弁護人の電話による打合せなどを実演し、最終的に第1回公判期日における公判前整理手続の結果の顕出まで実演した。研修参加者は、検察官・弁護人による非公式の打合せが行われていることに強い関心を抱いており、公判前整理手続期日以外でも当事者の積極的なやり取りによって公判前整理手続の効果的な実施が可能となることを考えるきっかけを与えることができた。

4 見学・概要説明等

東京地方裁判所を訪問し、裁判官室・書記官室・評議室の見学、刑事裁判の傍聴を行ったほか、現在の公判前整理手続の運用や迅速化に向けた取組に関する概要説明を受けた。

また、日本弁護士連合会（以下「日弁連」という。）を訪問した際には、日弁連において現在行われている公判前整理手続に関する研修についての概要説明等を受けた。

研修参加者は、日本において裁判官や弁護人が、公判前整理手続導入から20年近く経った現在においても、それぞれの立場で公判前整理手続に取り組んでおり、現在も様々な工夫をしていることについて関心を抱いていた。

5 スリランカ側の発表

本研修では、研修2日目に、裁判官、検察官、弁護士及び司法省職員のそれぞれから、作成中のSOPの内容やPTCの課題等に関する発表があったが、その後、本研修の上記模擬公判前整理手続の実演及び各種講義等を通じて、我が国における公判前



整理手続の運用とその定着に向けた取組に対するスリランカ側の理解が深まるとともに、日本側とスリランカ側との間の意見交換等を通じて、両国の相互理解も深化したといえる。研修最終日に行われたスリランカ側の発表において、複数の研修参加者から、我が国における法曹三者の共通理解と相互協力を踏まえた公判前整理手続の運用等を参考として訴訟遅延防止の取組を図るべきであるといった発言がなされていた。

#### 第4 総括

本研修では、スリランカが2022年2月にPTCを導入し、その効果的な実施に向けて課題があることを受け、本邦において実施する研修であることに鑑み、主として、我が国における公判前整理手続の運用と定着に向けた取組に絞ったテーマを扱った。研修参加者のアンケートには、「本研修で日本の法曹三者から貴重な経験を聞くことができた」、「模擬公判前整理手続で第1回公判期日までの流れを知ることができ、大変有意義な研修であった」等の意見が多数見られるなど、プログラムの内容に対する高い理解度・満足度を得ることができたといえる。特に、日本において法曹三者が協働することで公判前整理手続の適切な運用・定着に至った経験は、具体的な制度設計や状況の違いはあるものの、今後スリランカがPTCの運用・定着に向けた取組を行う上で参考になる部分が多かったように思われる。

他方で、検察官である研修参加者がPTCの効果的な実施に向けて非常に積極的である印象を受けたのに対し、裁判官・弁護士である研修参加者からは、PTCが訴訟遅延解消に有用につき懐疑的な意見が出るなど、研修参加者間で多少の温度差があったことは否定できない。もっとも、このような疑問を抱くことはある意味自然なこととも考えられ、日本側としてもPTCを導入するだけで直ちに訴訟遅延の問題が解決すると考えているわけではなく、そのためにはPTCにおいて実際に争点と証拠が効果的に整理される必要があるが、現状のスリランカの刑事司法には、これを困難にさせる事情が存在しており、その解消を今後の課題として指摘することができる。例えば、スリランカにおける捜査実務（証拠の信頼性が低い、検察官に捜査権限がなく、起訴前に証人と接触できないなど）、訴追基準（起訴猶予が制度上存在しないことはやむを得ないにせよ、起訴する嫌疑のハードルが相当に低いなど）、PTC後の立証制限に関する規定がないなど、日本の制度・実務と異なる点が多く見受けられ、これらが効果的なPTCの実施や訴訟遅延の解消を阻害する要因となっていると考えられる。

本研修では、時間的な制約から、スリランカ刑事司法の課題を包括的に扱うことはできず、PTCを中心にその一部を扱ったにとどまるが、その中でも、スリランカ側は、公判前整理手続を含む日本の訴訟遅延解消に対する取組に高い関心を示し、日本の法曹三者が訴訟遅延解消に向けて協力している実務の運用を高く評価しており、帰国後には本研修で獲得した知見を自国の法曹にも共有するための研修を実施する旨を述べていた。また、訴追裁量等の刑事司法の迅速化に資する制度にも関心を示していたことから、今後は公判前整理手続に限ることなく、スリランカの刑事司法の課題に即して更な

る知見の提供が検討されるべきである。

このように、本研修の内容は研修参加者の関心に十分に応えており、その目的を達成したといえる。今後は、本研修の結果を踏まえ、P T Cの普及・運用・効果的な実施及びその他の迅速化に向けた取組を支援していくために、スリランカ側の課題やニーズを的確に把握した上で、現地セミナー及び本邦研修等において日本側の知見の提供を継続していくことが相当である。



【法務省赤れんが棟前での集合写真】





【模擬公判前整理手続の様子】





【講義の様子】





【講義の様子】



【スリランカ側発表の様子】





【スリランカ側発表の様子】



## 第5回スリランカ本邦研修

|    |                                                           |                                                       |
|----|-----------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------|
| 1  | モハマド・ヤコブ・モハマド・イルサディーン                                     |                                                       |
|    | Mr.                                                       | Mohamed Yacub Mohamed Irsadeen                        |
|    | ジャフナ高位裁判所民事控訴審担当判事                                        |                                                       |
|    | Judge of the High Court, Civil Appeal High Court- Jaffna  |                                                       |
| 2  | ラマナタン・カナン                                                 |                                                       |
|    | Mr.                                                       | Ramanathan Kannan                                     |
|    | ニゴンボ高位裁判所民事控訴審担当判事                                        |                                                       |
|    | Judge of the High Court, Civil Appeal High Court- Negombo |                                                       |
| 3  | デニス・シャンタン・スーサイサス                                          |                                                       |
|    | Mr.                                                       | Denis Shanthan Soosaithas                             |
|    | ジャフナ高位裁判所判事                                               |                                                       |
|    | Judge of the High Court, Jaffna                           |                                                       |
| 4  | ウィジェスンダラ・ムディヤンセラゲ・マノジ・タルゴダピティヤ                            |                                                       |
|    | Mr.                                                       | Wijesundara Mudiyanseelage Manoj Thalgodapitiya       |
|    | クリヤピティア高位裁判所判事                                            |                                                       |
|    | Judge of the High Court, Kuliypitiya                      |                                                       |
| 5  | アール・ムディヤンセラゲ・アルトゲダラ・ジャナカ・プラサンナ・バンダラ                       |                                                       |
|    | Mr.                                                       | R. Mudiyanseelage Aluthgedara Janaka Prasanna Bandara |
|    | 検察局副訟務長官                                                  |                                                       |
|    | Deputy Solicitor General, Attorney General's Department   |                                                       |
| 6  | ペッタガン・アショカ・パドマル・ウィーラシンハ・デ・シルバ                             |                                                       |
|    | Mr.                                                       | Pettagan Asoka Padmal Weerasinghe De Silva            |
|    | 検察局上級検事                                                   |                                                       |
|    | Senior State Counsel, Attorney General's Department       |                                                       |
| 7  | ナガラトナム・ニシャンタ                                              |                                                       |
|    | Mr.                                                       | Nagaratnam Nishanth                                   |
|    | 検察局検事                                                     |                                                       |
|    | State Counsel, Attorney General's Department              |                                                       |
| 8  | コンガニゲ・クリサンガ・スダルシ・フェルナンド                                   |                                                       |
|    | Ms.                                                       | Conganige Chrisanga Sudarshi Fernando                 |
|    | 検察局検事                                                     |                                                       |
|    | State Counsel, Attorney General's Department              |                                                       |
| 9  | ロシャニ・ヘッティゲ                                                |                                                       |
|    | Ms.                                                       | Roshani Hettige                                       |
|    | 司法省司法担当次官補                                                |                                                       |
|    | Senior Assistant Secretary (Legal), Ministry of Justice   |                                                       |
| 10 | ガムナゲ                                                      |                                                       |
|    | Ms.                                                       | D T N D Gammunage                                     |
|    | 司法省改革担当部長                                                 |                                                       |

|    |                                                 |
|----|-------------------------------------------------|
|    | Director (Reforms), Ministry of Justice         |
| 11 | <b>クムドゥ・ディサナヤケ</b>                              |
|    | <b>Ms. Kumudu Dissanayake</b>                   |
|    | 司法省計画担当副部長                                      |
|    | Deputy Director (Planning), Ministry of Justice |
| 12 | <b>ティニー・フェルナンド</b>                              |
|    | <b>Mr. Tenny Fernando</b>                       |
|    | スリランカ弁護士会弁護士                                    |
|    | Attorney at Law, Bar Association of Sri Lanka   |
| 13 | <b>シェハン・デ・シルバ</b>                               |
|    | <b>Mr. Shehan De Silva</b>                      |
|    | スリランカ弁護士会弁護士                                    |
|    | Attorney at Law, Bar Association of Sri Lanka   |
| 14 | <b>ムトゥムニ・アジス・デ・シルバ・シリワルダナ</b>                   |
|    | <b>Mr. Muthumuni Asith De Silva Siriwardena</b> |
|    | スリランカ弁護士会弁護士                                    |
|    | Attorney at Law, Bar Association of Sri Lanka   |
| 15 | <b>ヌワン・クシャン・デ・アルウィス</b>                         |
|    | <b>Mr. Nuwan Kushan De Alwis</b>                |
|    | スリランカ弁護士会弁護士                                    |
|    | Attorney at Law, Bar Association of Sri Lanka   |

【研修担当/Officials in charge】

教官 / Professor 後藤 圭介 (GOTO Keisuke) 原 彰一 (HARA Shoichi) 内藤 裕二郎 (NAITO Yujiro)

国際専門官 / Administrative Staff 中嶋 勇葵 (NAKAJIMA Yuki)



第 5 回スリランカ本邦研修日程表（案）

【令和 6 年 3 月 3 日（日）～ 3 月 13 日（水）（移動日を含む。）】

[担当：後藤教官、原教官、内藤調査員、中嶋専門官]

| 月<br>日       | 曜<br>日 | 午前                                                                     | 休憩等   | 午後                                                             | 備考                                                                                   |
|--------------|--------|------------------------------------------------------------------------|-------|----------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------|
| 3<br>／<br>3  | 日      | 【入国】<br>成田空港着                                                          |       |                                                                | JICA東京セン<br>ター泊                                                                      |
| 3<br>／<br>4  | 月      | 9:30<br>JICAオリエンテーション<br>JICA東京センター                                    | 12:15 | 14:00<br>国際協力部<br>オリエンテーション<br>JICA東京センター                      | 14:45<br>【講義（迅速な刑事司法の制度）】<br>国際協力部 後藤教官<br>JICA東京セン<br>ター泊                           |
| 3<br>／<br>5  | 火      | 10:00<br>【発表】<br>スリランカ側発表<br>JICA東京センター                                | 12:00 | 14:00<br>【発表】<br>スリランカ側発表<br>JICA東京センター                        | 15:00<br>【議論】<br>PTCの効果的な実施及びSOPの内容の調整<br>JICA東京セン<br>ター泊                            |
| 3<br>／<br>6  | 水      | 10:00<br>【講義（弁護士立場から見た公判前整理手続）】<br>原弁護士（52期・元刑弁教官）<br>JICA東京センター       | 12:00 | 14:00<br>【模擬公判前・質疑応答】<br>原弁護士・ICD教官等<br>JICA東京センター             | 17:00<br>JICA東京セン<br>ター泊                                                             |
| 3<br>／<br>7  | 木      | 10:00<br>【講義・表敬訪問】<br>日本弁護士連合会<br>弁護士会館1702B会議室等                       | 12:00 | 14:00<br>【東京地裁見学】公判前整理手続に関する概要説明、公判傍<br>聴（公判前整理手続実施事件）<br>東京地裁 | 17:00<br>JICA東京セン<br>ター泊                                                             |
| 3<br>／<br>8  | 金      | 10:00<br>【講義（傍聴事件の解説・振り返り、<br>検察の立場から見た公判前整理手続）】<br>ICD教官等<br>法務省赤れんが棟 | 12:00 | 14:00<br>【意見交換会・写真撮影】<br>瀬戸所長、内藤部長<br>法曹会館、赤れんが棟               | 15:00<br>【議論】PTCの効果的な実施及び<br>SOP最終ドラフト完成等<br>法務省赤れんが棟<br>ICCLC懇談会<br>JICA東京セン<br>ター泊 |
| 3<br>／<br>9  | 土      | 休務日                                                                    |       |                                                                | JICA東京セン<br>ター泊                                                                      |
| 3<br>／<br>10 | 日      | 休務日                                                                    |       |                                                                | JICA東京セン<br>ター泊                                                                      |
| 3<br>／<br>11 | 月      | 10:00<br>【講義（公判前整理手続定着に向けた活動）】<br>大島元裁判官<br>法務省赤れんが棟                   | 12:00 | 14:00<br>【発表準備】<br>JICA東京センター                                  | 17:00<br>JICA東京セン<br>ター泊                                                             |
| 3<br>／<br>12 | 火      | 10:00<br>【発表・総括質疑】<br>スリランカ側発表・総括質疑<br>JICA東京センター                      | 12:00 | 13:00<br>評価会・修了式<br>JICA東京センター                                 | 15:30<br>JICA東京セン<br>ター泊                                                             |
| 3<br>／<br>13 | 水      | 【出国】<br>成田空港発                                                          |       |                                                                |                                                                                      |